



TO ACNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT

THE YOUNG MEN'S CLUB OF NARA

C/O NARA YMCA, 2 Saidaiji Kunimi-cho, Nara Japan Tel. 0742-44-2207

CHARTERED SEPT. 14TH 1950

ホームページ: <http://www3.kcn.ne.jp/~kauchida/sub3.html>

国際標語: "Growth through service." 『奉仕による成長』
 アジア標語: "Into the bright light of selflessness."
 西日本区標語: "Act together within community towards the same goal."
 『ベクトルを合わせ、地域と共に活動を』
 阪和部標語: 『ベクトルを合わせ、地域と共に活動を!』
 ネット事業主任: 『メネットが蒔いた種子から地域に夢を』

会長: 辻野啓一
 副会長: 高橋辰夫
 " : 中山景司
 書記: 平井洋三
 " : 三木陽子
 会計: 林 佑幸
 " : 芳澤伸之
 直前会長: 杉田友高
 次期会長: 高橋辰夫
 ネット会長: 鍋島安紀子

5月 2003年

ブリテン編集委員
 内田勝久
 杉田友高
 浜田 勉
 辻野啓一

クラブ標語: 『思地球、治地域』 "Think global, act local."

5月例会

日時 2003年 5月10日(土) 18:30 ~ 20:30
 場所 奈良YMCA別館3F TEL 0742-44-2207

プログラム	司会	枝川 雅美
1. 奈良ワイズソング		
2. 食事(食前感謝)	当 日	指 名
3. 開会点鐘	会	長
4. ワイズソング		
5. 聖書・祈祷	司	会
6. ゲスト・ビジター紹介	会	長
7. 誕生結婚祝い		
8. 福森淑子氏入会式		
9. 卓話 「青春をかけたホッケー」		
	林 貞淑 氏	
10. 諸報告		
11. ニコニコアワー		
12. YMCAの歌		
13. 閉会点鐘	会	長
今月の準備受付当番 芳澤、松田、辻野、浜田		

[強調月間ひとくちメモ]

LT

リーダーシップは共に成長することです。十分な準備と話し合いによるトレーニングで、クラブや個人の理想や目的を確認してください。活動意欲の高揚やリーダーとしての自覚は、個人に帰する所が大ですが、それを促す事はできます。「ワイズ必携」を活用してください。

臼井征郎理事

[今月の聖句]

日本キリスト教団 高の原教会
 牧師 中野敬一

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ローマ 12章15節

うれしい出来事があった時、共に喜んでくれる人がいると喜びが増す。

悲しい思いをしている時に、共に泣いてくれる人がいたら慰められる。

喜ぶ時にも、泣く時にも、私たちは共に時を過ごしてくれる誰かを求めている。

そして、誰かも私たちが求めている。

2003年4月 クラブ統計

・在籍会員 24名	・コメント 0名	BFポイント	ニコニコ献金
・例会出席 14名	・ゲスト 4名	4月: 切手 0pt	4月: 16,956円
・メイクアップ 1名	・ビジター 8名	現金 0pt	
・メネット 8名	・出席率 58%	累計: 切手 0pt	累計: 1,026,938円
		現金 0pt	

#例会 5月 10日(土) 18:30 ~ 20:30
 #役員会 5月 22日(木) 19:00 ~ 21:00
 #メネット会 奇数月第4金曜日 10:30 ~ 12:00

奈良YMCA
 奈良YMCA
 奈良YMCA

#出席第一・親睦・協力奉仕#

会長通信

辻野啓一

4月例会は北方一成、直美ご夫妻をお迎えし、ネパールの医療事情について話して頂きました。北方氏は海外医療協力会の派遣意思として10ヶ月間ネパールの病院で医療に携わられました。お話しをお聴きするまでの私にとっては、ネパールと聞きますとヒマラヤ！写真を見たり人の話しを聞いたりしヒマラヤは私の憧れの山です。ヒマラヤのトレッキングに一番いい季節は11月頃でしょうか。トレッキングできる体力のあるうちに一度は行きたいものです。しかし今、11月に2週間の休みをとったら帰ってきたときは部屋も机もないのも分かっています。さて泣き言はこれくらいにしましてお聴きしたネパールの医療事情に戻しましょう。予想通り設備は先進国のように整っていないようです。また公的な医療保険制度がなく、任意の保険にも加入できない人がほとんどで、お話しを聞いた限りでは経済的な問題が一番のネックのように思いました。もちろん交通手段や生活における衛生面等改善されるべき課題は多いようですが。

さて今回は奥様の直美様もお話しをして下さいました。こちらは主に生活面や社会的な問題について触れられ大変興味深くお聴きする事が出来ました。ご夫婦どちらも、講演の準備を十分になさってからお話しをして頂いたので中身の濃い内容をお聴きする事が出来ました。ありがとうございました。



講演中の北方直美氏

また、4月例会にはYMCAの研修生やボランティアリーダーのかたが大勢参加され活気のある例会になりました。多くのリーダーがワイズへの理解を深め、



北方一成先生を囲んでリーダーたちと

より見聞を広めるためにワイズの例会に参加する事は意義深く、以後も継続できるようにコンタクトを取りつづけましょう。

メネット通信

言葉について思う

辻 千津

「僕はオンナだ」「私はオトコよ」・??どんなシチュエーションを想像されましたか？勿論、「僕＝オンナ」ではないし、「私＝オトコ」でもない。いわゆるウナギ文という日本語に言い回しである。10年ほど前、みなとYMCAに通っていた時に習って、なるほどと納得したものだ。ウナギ文には、もっと長い言葉が略されている。

例えば、すし屋で「何を握りましょう？」「僕はバカ(貝を握ってもらいたい)だ」「大バカと小バカがありますが・・・」「僕はバカだ」「私はウナギ(を握って欲しい)」とやりとりしていても、日本人なら論理的におかしくても意味が通じない人はいない。冒頭の会話もあなた風アレンジできるだろう。

言葉は文化を表し、また、表現も用いる人の性格を反映するから日本語の面白さが倍増していく。金色夜叉のお宮は、「ひどいわ」「あんまりだわ」という短い一言で、言いたいことを胸に秘めた。「何故なら・・・」と言う言葉は日本人には好まれない。言い訳することを潔しとしない文化があると思う。

日常生活においては、省略される話し言葉に戸惑うことも少なくない。ビジネスの場合は、簡潔ながらも省略の文化は横に置いて欲しいと願うことも多い。反面、挨拶や断り文句は、枕詞や理由を長々と述べることが多い。断りの時に、まず、理由を述べて結論を引き出すというのは日本人らしい。理由から先に述べる人は82%という統計もある。結論を述べなくても理由だけで分かり合えるはずだという暗黙の了解が存在している。しかし、まったく正反対に解釈されてしまうこともあるので、元来、付き合いの下手な私は、時にスランプに陥ることとなる。

そんなわけで、久しぶりに本棚の日本語関係の書籍をめくってみた。「は」「が」の使い方ひとつをどのように伝えたらいいのかと勉強したことが、もう懐かしい思い出である。毎日、新しい漢字を学ぶ娘の姿を見て、本物の日本語を使える人間になって欲しいと祈る。日本人の性質をしっかり受け継ぎつつ・・・と自分が出来ないことを託している。

兄との別れ

枝川雅美

舌癌と知ってから三年間、三回の手術、そして放射線

療法、抗癌剤の服用、そして上咽頭転移による鼻の奥へ増殖し腐敗し始め、日々の痛みと向き合っている毎日を、痛みを忘れようと、たくさんの包丁を買っては研いで、私や知人に送ってくれた兄、うまく電話で話すこともつらくて、近況さえも私には伝わっていなかった。初めて知ってありったけの家にある古い鎮痛剤や座薬を送ってあげたけれど、やさしく電話で「薬が効かないぞ」といっていた兄。我慢に我慢を重ね、見かねて大学病院へ入院を決意した。そのわずか一ヶ月間に、会うべき人にすべて会い、姉は毎日病室へつめて通っていた矢先、告知を受けた兄は、もう家に帰りたくても帰ることはできないと知らされ、動揺し「私はどうすればよいのですか」「私は何か悪いことでもしたのですか」「助けてください」と言ったという。姉の宗教への心を一度も認めず、一度たりとも有難うと言ったことがなかった兄が、おなかの皮膚を半分移植してある回らない舌で有難う」と二度いったという。「手をとって祈らせて欲しい」との姉の願いに、兄は手を握り返して返事したという。入院して半月後に、一番元気でひょうきんな表情を見せることができた兄に、結ういつ私だけが面会できたとき「何か欲しいものあるか？」と聞かれ、私には返事することができなかったが「お兄ちゃんはいいいね、子供が四人もいて、私なんか親に反対された結婚のおかげで今でも一人きりよ。」と励ましてあげたい言葉のつもりだったのに、兄は笑って、自分と姉と私の位置を指で三角に指して、三人一緒にいるんだからとジェスチャーをして見せてくれた。その時に初めて、私は姉が自分の家族であるのだということに気がついた。有難かった。反対に私のほうが勇気付けられてしまったのである。モルヒネの点滴で楽になっていたから、そんな素晴らしい兄の思い出を、たった一日の奈良東京の日帰りの一時間だけのお見舞いに、それが最後の見納めだったとは、私に気付くはずもなかった。でもいつかは、その日がやってくるのだと心に言いきかせては来たつもりだったから、たった一時間の面会に別れに握手して部屋を出てきた。その半月後に様子も急変し、牧師さんも立ち会ってお祈りして下さったことを、兄はしっかり姉にも手を握り返して合図してくれたという。そして牧師さんの祈りが終わったときに兄は「アアッ」と二度声を出し息を引取ったという。姉はそのとき手を握り「お父さん天国へ行くんだからね」と、その言葉にも手を握り返したという。

自宅に帰った兄の寝顔はとてもきれいだったと、姉は姪と兄と三人で川に字になって一夜を過ごしたという。心でも、行動でもスパルタ式の教育をしてきた兄ではあったが、残された子供たちは、やはり父親を愛していた。私が思い出を語り、台所に電気をつけてくれた事や、私の引っ越し祝いにCDデッキを買ってくれたこと、なのに10年たってこわれてしまっているものを甥たちは「捨てられないよ」と懐かしんでくれていたのである。

兄にいろいろな薬を送って上げられればと「もう一度病院の仕事を見つけるからね」と言ってあっただけに、一年間かけて病院薬剤師の仕事を探していた矢先、五十才を過ぎた私の就職が決まる採用の電話が入った。同じ日の二時間後に兄は天に召された耳もとで言ってあげたかった。まるでドラマのような皮肉な結末となってしまった。きっと兄の願いが、私の身の上に通じてくれたのではないだろうか。静養区会社を退職して、これからもっとやりたい事がたくさんあったであろうし、かわいい孫にだけは、非常に優しくったという兄は、六十二才でした。人生に終止符を打たざるを得なかったこと、痛み苦しみから逃れて新しい世界で私たちを見守っていてくれるでしょう。やり残したことがたくさんあって、今もくやしがつているのではないだろうか。賛美歌の流れる中、無宗教で行われた葬儀に立ち会われた五人の宗派の方達に式典を進めて頂きました事、心よりお礼申し上げます。有難うございました。「よい式典でしたね。」とメモリアルの方たちから感心され、兄も喜んでいる事と思います。

「有難うございました。」この言葉を、式に出れなかった、九十才になる年老いた母にかわって私は姉に感謝として告げたい。

映画「戦場のピアニスト」に思う

中山 景司

いささか旧聞に属するが、今年の米アカデミー賞受賞式はイラク戦争が展開される中での開催で、例年のような華麗さはなく、戦争の影を落とした授賞式であったと言う。

前評判の高かった「シカゴ」や「戦場のピアニスト」が、やはりアカデミー会員の共感を呼び、「シカゴ」が作品賞を含め6部門を制し、「戦場のピアニスト」は主演男優賞と監督賞など3冠を制した。

映画好きの私は、毎年オスカーに輝いた「作品賞」受賞作を、必ず真っ先に観ることにしている。

しかし、今年は例年と違い、作品賞の「シカゴ」ではなく、真っ先に「戦場のピアニスト」を観た。

それは、アカデミー賞授賞式の数日前にアメリカのイラク攻撃が始まったことも関係していたと思うが、過去第2次大戦下のナチス・ドイツの残虐きわまる犯罪行為を扱った映画（「シンドラーのリスト」、「ビューティフルライフ」、「アンネの日記」、「禁じられた遊び」など）には特別の関心を寄せ、必ず観てきたという経緯があるからである。

この映画の舞台は、第2次世界大戦下のナチス・ドイツが猛威を振るったポーランド。

主人公のユダヤ人ピアニスト・シュピルマンはワルシャワ放送局で演奏する、実在のピアニストであった。

ナチス・ドイツによるワルシャワ陥落後、ユダヤ人はゲットーと呼ばれる居住区に移され、飢えと無差別殺人におびえる日々を送る。そして、強制労働に耐えられぬ大人や老人、女性、子供など、何十万ものユダヤ人が次々と強制収容所に移され、ガス室で殺された。

このことは、戦後、人類史上最も残忍且つ恥ずべき犯罪行為として、その事実が明らかになり、あの有名な「夜と霧」(ビクトル・フランクル)や歴史書に記録され、映画にも取り上げられたので周知のことである。

さて、シュピルマンも家族と共にゲットーに強制移住させられ、やがて、両親や姉弟は収容所に送られたが、シュピルマンだけが必死の思いでゲットーを脱出し、隠れ家で息を潜める日々を送る。砲弾が飛び交い、町が炎に包まれる中、食うや食わずで生き延びるシュピルマン。心に中で奏でる音楽だけが、彼の唯一の希望であった。

だが、ある晩、彼は遂にひとりのドイツ人将校に見つかってしまうが、この将校はシュピルマンの命を助ける。その将校は何人もユダヤ人の命を密かに救っていた実在のナチス将校であった。

こうして、彼は奇跡的に戦場を生き抜き、過酷で、数奇な運命をたどったピアニストであったが、「監督賞」をとったポランスキー監督もユダヤ系で、両親は収容所に送られ、自身も幼い頃見た銃撃・銃殺の場面が忘れられず、この映画を通して、ナチスドイツ占領下での自身の体験を重ねるように描いた渾身の作品である。

カンヌ映画祭パルムドール(最優秀作品賞)授賞式では、惜しみない賞賛と心からの祝福にポランスキー監督は泣き、今回のアカデミー賞授賞式では、イラク戦争に講義し、吠(ほ)えたと新聞は報じた。

私は、大戦下のナチス・ドイツの残虐、非道な映画を見るたびに、戦争が人間をかくも残酷、非道にするものかと、いつも身震いを禁じえない。

しかし、私たちは、過去の戦争の忌まわしい歴史的事実を直視することを避けてはならないし、歴史への反省と教訓に立ち、二度とこうした不幸な出来事を起こさないよう、後世に語り継ぎ、遺訓とすべきであることは言うまでもない。

特に、戦争を知らない若い世代に、戦争がもたらす惨禍と不幸をこうした映画等さまざまな方法を通じて、繰り返し、繰り返し知らしめる必要性をいっそう痛感した次第である。

大切なことはそのことを踏まえ、戦争を起こさない真摯な国際的、外交的努力と人間の英知に期待するほかあるまい。

こうした映画が繰り返し作られるのも、戦争が人間を際限もなく残酷、非情にすることへの「気づき」と戦争

という不幸な出来事に対する人間の「忘却性」への警鐘とすべきだからであろう。

先の大戦で、日本がアジア近隣諸国への侵略戦争によって与えた惨禍と人々の心に傷跡は、戦後60年近くたってもまだ残っているばかりか、被害国では学校教育を通して、それらの事実が若い世代に伝えられているのである。

戦争の代償は、いろいろな面であまりにも大きい。

阪和部テニス大会報告

辻野啓一

4月29日、舞洲スポーツアイランドのシーサイドテニスガーデン舞洲で第17回阪和部テニス大会「障害者と共に」が開催されました。

当日は、車椅子の方やサポーター、プレーヤー等66名の方々が参加され盛大に行われました。

内田メネットが、泉北の小路さんと組んで、良い成績を残し賞品を獲得しました。

また最後に、懇親会の締めとして次期阪和部長をされる等クラブの杉浦さんが、挨拶をされ次回もみどりの日に開催すると宣言されました。



多くの参加者があり盛況でした



恒例の内田メネットの準備体操